

市長室：対話の記録

要旨

開催内容の公開

市長あいさつ

石坂会長あいさつ

活動状況報告

意見交換

- ①高齢者、障害者を地域で支えるための体制づくり等について
- ②子育て、虐待などについて相談できる場所を増やすことについて
- ③地域活性化のための方策について
- ④まちづくり推進協議会と消防団との連携について
- ⑤高齢化対策、地域の絆づくりと個人情報について
- ⑥町内会、市民委員会の名簿と個人情報の保護について
- ⑦地域住民の情報の把握について
- ⑧伊ノ沢スキー場の夏場の利用等について
- ⑨地域の若い世帯の情報の把握について
- ⑩まちづくり推進協議会と議員との関係について
- ⑪嵐山スキー場跡地について
- ⑫市民参加の取組について
- ⑬堤防に桜並木をつくることについて
- ⑭神居支所・神居公民館の老朽化について
- ⑮神居中学校の水道設備の老朽化について

第55回目となる今回は、各支所所管区域内の地域住民等が、地域の課題を共有し、その解決に向けた方策を検討し、地域特性を活かした個性あるまちづくりを推進するため、平成22年度に各支所に設置された「まちづくり推進協議会」のうち、「神居まちづくり推進協議会」（石坂会長）の委員の皆さんと、これまでの活動状況や今後の課題、市への提言などについて対話、意見交換を行いました。



日時	平成23年6月30日(木) 午後6時00分～午後7時15分
場所	旭川市神居公民館 中会議室 (旭川市神居2条9丁目)
相手団体	神居まちづくり推進協議会(石坂辰義会長)の委員 13人(当日の出席者11人)
出席者	旭川市長 西川将人 「神居まちづくり推進協議会」(五十音順 敬称略) 石坂辰義(会長) 遠藤隆 佐々木和雄(副会長) 佐々木建夫 佐藤美枝子 滝沢敏弘 林和典 林茂夫 古山慶一 三宅国博 藁谷裕

対話の内容

市長あいさつ

皆さん、こんばんは。

今日は皆さんたいへんお忙しい方々ばかりでございますが、お時間を取っ

ていただき、神居支所内の公民館にお集まりいただき誠にありがとうございます。

私が市長に就任以来、対話から市政を動かしていくという思いのもとで、このような対話集会を開催してきております。各団体の皆さんとは23回、また各地域の皆さんとはこれまで31回開催させていただいて、今日が55回目の対話集会となります。今日は神居まちづくり推進協議会の皆さんとの対話集会という機会を設けさせていただきました。神居地域と忠和地域の皆さんには日頃からこの推進協議会並びにそれぞれの各団体を通じて、地域づくり、まちづくりにたいへんお世話になっております。

旭川市内には支所が7つあり、この7つの支所それぞれに「まちづくり推進協議会」という組織を昨年立ち上げさせていただき、各地域のいろいろな特性やまた地域おこし、またそれにより地域の絆を強めて、地域力を向上させていくという取組に繋げていきたいという思いで、皆さま方に委員となっただいて、各地域で盛り上げていただいているところでございます。

これまでの対話集会では、いろいろなご意見等がありましたが、順次、市の中で実現できるものについては市の政策として、また事業として行ってまいりました。ほかにも中期的また将来にわたっての課題、まちづくり全般にかかわる様々なご提案をいただきまいりました。それらについても、市の中期長期的な中でいろいろな計画の中で極力盛り込めるよう、また参考にさせていただけるようにということでこれまで集会を開催してまいりました。私自身もまた今日出席しております市職員それぞれが、こういった皆さんからのご意見をたいへん貴重なご意見として聞かせていただいているところでございます。

これまでいろいろなご意見を各地域でいただききておりますが、例えば町内会加入率の低下についてなど、今、全市的な課題として、いろいろな地域で聞かせていただいております。そのほか少子高齢化や核家族化の進行など、都市化がどんどん進んでいる中、地域の絆の希薄化、人間関係の希薄化がどんどん進んできて、いろいろな問題も出てきています。昨年全国的にニュースになりましたが、高齢者の所在が分からない、行方不明者がたくさんいるという社会問題が発生しました。これも今の世の中の問題の一つだと思っております。旭川にも一人暮らしのお年寄りがたくさんいらっしゃいますし、これからはますます増えてくるであろうという予測をしていますが、そういった方々をどのように地域全体で支えていくことができるかということも重要な課題です。核家族化により、子育てをしているお父さんお母さんで、近くに祖父母も親戚もいないという方がたくさんおります。誰にも相談できない状況という中で悩み、子どもに対する虐待につながってしまうという事例も最近は多くなってきています。そういった悩みを相談することができることを、そういった方々にどうやって知っていただくかということもたいへん重要な課題であります。行政の果たすべき役割もたいへん重要ですが、行政だけでは果たしきれない部分が多々ございますので、町内会、また市民一人一人やいろいろな組織団体企業が相互に補完しながら、協力しながらこのような課題を解決していかねばいけないと考えています。

現在はこのまちづくり推進協議会は市内に7つありますが、今後、支所地域以外にも新しく協議会を立ち上げて、より身近な部分でいろいろな地域おこし

をしていただけるように、準備をしている最中であります。また、これは旭川というまち全体の今後のありかたに関わる問題ですが、まちづくり基本条例の制定に向けて作業を進めているところです。この条例をつくるため、「旭川地域自治検討会議」という13人の委員で構成する会議をまもなく設置する予定です。様々な視点から、地域そして市全体を何とか盛り上げていきたいと思っていますので、神居また忠和地域の皆さま方にも引き続き変わらぬ、また更なるお力添えをいただくことができればと思っていますので、よろしくお願い申し上げます。

また、それぞれの協議会でいろいろな事業を展開していただきましたが、皆さんには「神居遺産マップ」を東海大学の学生の皆さんからの力をお借りしながら、神居またこの忠和地域の素晴らしいPR、また特性を紹介していただくマップを作成していただいたところでございます。

今日は7時までという限られた時間ですが、皆さんからいろいろご意見を頂戴したいと思っておりますので、冒頭の私のあいさつはこの辺で締めさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

石坂会長あいさつ

今日は皆さま方には何かとご多忙の中、ご出席いただきありがとうございます。

今日は、まちづくり推進協議会の第1部として市長との対話集会の後に、まちづくり推進についての協議に入りたいと思っています。公務多忙の中で、市長と直接お話しする機会はなかなかありませんので、今日はこの機会を利用して、日頃の思い、支援に対するご意見等をぜひいただければと思っています。

神居のまちは、昨年、記念式典があったように、神居村、旭川村、永山村が開村して

120年以上経つという、歴史のある地域だと思っております。

市長のあいさつにもありましたが、少子高齢化、核家族化と非常に社会が大きく変化している状況ですが、神居地域においてはこれまでの歴史の中で皆さんそれぞれが支えあってやってきている地域です。しかしながら、いろいろな問題に直面するにあたり、一番困るのは個人情報保護とって、ある一時から名前も何も教えなくなったということです。それでは地域の絆はなかなか結ぶことはできません。これについても、今日は何か解決の糸口が見つかればと思っています。

今日は皆さんにとって有意義な対話集会になることをご期待申し上げます。簡単ですがごあいさつに代えさせていただきます。



活動状況報告

和田事務局長(市民生活部次長)

昨年の6月22日、第1回目の神居まちづくり推進協議会を開催させていただきました。いきなり委員の皆さん方に、神居のまちづくりについてお考えいただきたいと申し上げても、テーマが大きすぎてなかなか難しいのではということらを考慮しまして、第1回目の会議資料として、都市計画マスタープランの神居地域の概要版を配付いたしました。神居の魅力などもいろいろ出ているというふうに思います。それからもう一つは、神居地域の人口、世帯の動きということで1年前そして5年前の数字を資料として付けさせていただきます。石坂会長が口火を切られて神居の魅力をまとめてお話しされたということで始まりまして、各委員さんからもいろいろご意見をいただきました。実は私も神居に22年間住んでいますが、神居の成り立ち、それから神居の魅力などをまったく気付かずに今日まで過ごして来たなという思いをいたしました。

もう一方で、地域包括支援センターの林センター長からは、お仕事を通じての高齢者問題について、高齢者の所在不明の問題や、高齢者の一人暮らし、孤独死、認知症、それから買物難民など、このような現在の高齢者を取り巻く問題について、非常に興味深いお話をいただきました。

そこで、私たちの協議会では、神居の魅力や成り立ち、もう一方で高齢者問題、こういった二極化の方向に議論が進んできたように思います。第2回目では1回目に欠席をされました神居、忠和商工会の両会長さんが見えになり、神居地域の市街化地域としての今後の発展についてはかなり限界があるというお話がありました。その他としましては、両商工会会長さんも神居の魅力そして高齢者問題のこの2つのお話をされていたと思います。そういったご意見を踏まえまして、第3回目には、神居の史跡などを実際に見てまわりました。その時点で、平成22年度の補助金の事業としては、地域の方々に神居の魅力や成り立ちを知っていただく取組に絞ろうということで、神居遺産マップを作成することになりました。

最後の第4回目には神居遺産マップのコンセプトなどについての協議をさせていただきます。このようにして第4回までの会議を終えました。神居遺産マップ作りに関わる部分についてですが、補助事業を決定しても、実際にその事業を行っていただくグループ・団体がなかなか見つからないという支所共通の課題があります。しかし、幸い私たちはマップ作りによく適した東海大学というデザインを専門にされてる大学があり、そこの学生さんをお願いをして協力をいただくことができました。お陰様で、3,500部ほど印刷することができ、神居全地域に回覧させていただいております。また、神居地域の6つの小学校の4年生の授業でこのマップを活用していただいて、旭川の歴史の中で神居の歴史についても触れていただくということとなりました。このように当初の目的である神居の住民の皆さんに神居の魅力や成り立ちを知っていただき、神居をもう1度見直していただくという取組につながっていったのかなと思っています。実は、まだ1,200部ほどありますので、これからも公民館活動などで活用して、神居の魅力や成り立ちについて皆さんにお知らせしていきたいと思っています。22年度の取組については以上でございます。

平成23年度における事業内容
市長

今年度の神居まちづくり推進協議会の事業としては、何を考えていますか。

和田事務局長

昨年の協議会での意見は大きく二つに区分できるのですが、その一つである高齢者問題については、やはり時間がかかることであるので、平成23年度も引き続いてじっくりと検討していこうということになり、今年度は高齢者問題について、何とか地域で高齢者に対応できないか、あるいは高齢者にやさしい地域づくりにつなげられないか、ということについて協議を進めているところ です。

市長

それが今年度の大きな柱の一つということですね。

意見交換

参加者から寄せられた意見と、市長のコメントについてまとめたものを掲載します。
(以下、参加者の皆様については、敬称を省略させていただきます)

①高齢者、障害者を地域で支えるための体制づくり等について

古山

高齢者だけでなく、障害者も施設入所者の地域生活への移行の促進ということで、地域での生活支援などが課題となっています。地域のつながりが非常に希薄化してきている中、北海道の地域支え合い体制づくり事業では、地域で高齢者や障害者の方々を日常的に支え合うための体制づくりを進めるため、ネットワークの整備や人材育成、事業の立ち上げなどを支援しています。各自治体の実施主体となり、ネットワークなどの立ち上げ時に補助があるようですが、一番大事なものは、それらを立ち上げた後どうするかという部分だと思います。有償ボランティアを活用して地域で支え合っている所もあるそうですが、地域で支え合う体制を立ち上げた後、それが続けられていくための何らかの方策が必要だと思います。

②子育て、虐待などについて相談できる場所を増やすことについて

古山

子育て支援センターについてですが、保育所との併設型だけでなく、つどいの広場のような単独型も増やしていただきたいと思います。地方から転勤などで来られた方は、子育てについて相談するところがわからずにいる人も多いです。地域子育て支援センターや、つどい広場では虐待や育児などについての相談を行っています。保育所併設型もよいですが、つどいの広場のような単独型ももっと各地域につくり、相談できる場所を増やすといいと思います。

市長

つどいの広場の「ねむのき」さんは、中央公民館から移転して、今は第二庁舎で行っていますね。引き続きよろしく申し上げます。貴重なご意見どうもありがとうございました。

③地域活性化のための方策について

佐々木副会長

地域活性化の最も大事なことは、地域資源の有効活用です。例えば町内会、市民委員会、地域の市民活動団体、ボランティア団体、NPO団体などの間で情報を発信、共有して、目的意識を持って、それぞれの役割を果たし合い、足りない点を補い合いながら、いわゆる協働のまちづくりを行っていくということです。

今、町内会や市民委員会では人材の育成、市民活動団体においては人材の確保、情報の共有などの課題を抱えています。地域活性化の大きな3大要素は、人と組織と資金の3つです。人材の確保、資金の確保、それから私たち町内会、市民委員会、市民の目線に沿った共益性のある事業の推進が必要であると思っています。

市長

人材活用については、本当に全市的な問題だと思います。高齢化が進んでいく中で、担い手を見付け、どう引き継いでいくかということは本当にたいへんなことだと思います。やはり仕事をしている人は忙しくて、なかなかできないかもしれませんが、会長までとはいかなくても、青年部長とか、副部長、防犯部長などに現役時代からなっていたらいいと思います。退職後には町内会や市民委員会の三役などもやっていただければいいかなと思います。それぞれの町内の方に頑張ってもらわなくてはいけないのですが、行政もしっかりそれをPRするということが大事だと思いますので、引き続きまた頑張っていきたいと思っています。

④まちづくり推進協議会と消防団との連携について

市長

今回の東日本大震災のことを考えると、やはり防災機能という部分が地域の中でもたいへん重要になると多くの方が感じたのではないかと思います。市内には消防団が30以上あり、それぞれの地域に根付いた方々が消防団に入っています。これからの課題ですが、各地域のまちづくり推進協議会と消防団組織とで日頃から情報交換をしながら、いろいろな部分で連携していただければ、万が一の時にすぐ対応できるのかなと思っています。これはまた改めてご相談させてもらいたいと思っています。

消防団もなり手を探すのが本当にたいへんだと聞いておりますが、旭川の消防団の皆さんはレベルが高く、去年は永山の分団が、北海道の訓練大会で優勝して、全国大会に出場したりしています。そういう面では心強く思っていますので、もっともっと日頃からいろいろな部分でお付き合いが増えてくるといいと思っています。

⑤高齢化対策、地域の絆づくりと個人情報について

佐々木副会長

当神居のまちづくり推進協議会では、2年目は高齢者問題について協議し

ていく予定です。神居地域は高齢化率は非常に高いのですが、今はとても元気な方が多いです。しかし、いずれは病気になったり、元気がなくなってしまうので、これからは介護、医療、高齢者の生き甲斐づくり、生活環境面の整備が大事だと考えています。今は元気でも、歳をとるにつれて、いずれは病院にもかかりますし、持ち家の方が身体を悪くして、家の管理もできなくて、老人福祉施設に入る方も多いですし、子どもと同居するといっても、今の時代ではいろいろと難しい問題もあります。家を売ろうとしても、不景気で買う人もいないですし、地域の中でも空き家が増えてきています。日頃から隣近所で付き合いがあれば、いろいろな情報も入りますし、その方の家のことも分かるし、こうしなければいけないということも出てくると思うので、そういうことが絆だと思えます。しかし、今、地域住民は個人情報に関係もあり、自分の生活のことを他人に知られることは非常に嫌いますし、連帯意識の希薄化もあり、人づくり、環境づくりについては、なかなか難しい状況です。

市長

個人情報問題は皆さんもすごく苦勞されていることと思います。65歳以上の高齢者の方の情報は、民生児童委員さんに提供させてもらっていますが、それ以外の世代の方の情報が非常に難しい部分だと思います。

⑥町内会、市民委員会の名簿と個人情報の保護について

石坂会長

市では、町内会の役員名は会長名のみ市の方へ届け出てくれればよいということで、各部長の氏名はいらないそうです。ですから市には町内会の役員の名簿がありませんので、情報交換もできません。以前は、各部長、副部長名まですべて市に報告していました。

今年、市民委員会発足50周年記念事業で、役員を10年以上務めている方が表彰される予定です。市民委員会では各町内会の役員名簿を持っていますので、役員を務めた年数はわかりますが、市で把握している情報と一致していないことがあります。そうすると、本来、表彰されるべき人が表彰されなかったりということになります。

また、市民委員会の名簿を外部に提供することも難しいようです。地域で活動する人は、市民委員会や町内会の会長名と住所、電話番号くらいは知っておかなければ、活動できません。地域の人はいろいろなことをやりたいと思っても、個人情報の保護が壁となり進むことができない状況なのです。

市長

今のご意見を踏まえて、少し検討させてもらいたいと思います。

⑦地域住民の情報の把握について

石坂会長

市などから地域の町内会、老人クラブ、民生児童委員などに依頼があって高齢者宅を訪問する事業は、消防のほのぼの防火訪問などたくさんあります。ある高齢者の方に聞くと、1週間のうち5日も入れ替わり立ち替わり来る

時があるそうです。その人は足が悪く、玄関まで出て行くのに3分から5分かかり、戸を開けるともういないそうです。そこでモニターを付けて、それを使って会話するようにしたそうですが、訪問することばかりがいいのかどうかと思います。情報がない中で皆手探りで、訪問して良いものか悪いものかと迷いながら、苦労している状況です。一番困っているのは、病院に入院した方の情報が全然把握できないことです。他の人にどこに行ったか尋ねられても、ぜんぜんわかりませんから、会長さん方は皆苦労しています。

町内会では緊急時の連絡網をつくっているのですが、情報をいただけない人もいます。緊急時の連絡先などの情報を教えていただけない人もいます。先日も急にいなくなった方がいましたが、誰に連絡していいのかわかりませんでした。しかし、私たちがそういう問題を解決しようと思ったり、心配することは、ある意味ではおせっかいなのかもしれません。

市長

放っておいてほしいという方はいるかもしれないですね。しかし、そうではないのに、情報を把握されていない方がいるとすれば、それはやはり努力して把握していかなければならないと思います。

石坂会長

今は親子でさえ別々に家を建てて住んでいるので、親が亡くなっても、子どもはわからないんです。私の知人は、サークル活動を一緒にしていて、ある日来なかったので電話をすると亡くなっていました。そういう普段の付き合いがなければ、まったくわかりません。しかし、それを調べなければいけないということで、今、社会福祉協議会でやっているのです。それはたいへんな作業です。民生児童委員も現場ではいろいろと苦労しています。

市長

プライバシーの問題もありますが、私たちとしてはやはりなるべく情報を把握することができて、市民の皆さんが安心して元気で暮らしているのかということ把握していかなければいけません。その度に民生児童委員さんや町内会長さんなどに、たいへんお世話になっているということについて本当に感謝しています。

石坂会長

地域活動、町内会活動が活発であれば、うまくいくようになると思っています。

しかし、町内会への加入についても、加入するメリットがないと言いますが、一体、何を求めているのでしょうか。損得ばかりでは人生やっていけないと思います。自分の損得ばかり考えずに、立派な社会人となったら、今度は地域への恩返しをするという気持ちがあるといいと思います。

市長

これまで人に育ててもらったから、今度は人に恩返しするという気持ちを持

つ人が増えると、少し社会も明るくなってくると思います。

⑧伊ノ沢スキー場の夏場の利用等について

遠藤

伊ノ沢スキー場については、存続が認められ、たいへんありがたいと思っています。

このスキー場のロープリフトは、ひと冬に延べ 45,000 人の利用がなければ赤字となるそうです。そこで利用者を増やすため、私たちとしても回覧板をまわしたり、チラシを配ったりして努力しているところです。

今年になり、スポーツ課長から、夏にここでイベントなどを行えば、冬の利用率アップに結びつくこともあると思われるので、全市民が注目するような、このすばらしい自然環境の中での夏の有効利用についての提案がありました。冒険広場、プレイパーク構想というそうですが、私たちもできるだけ協力したいと思っています。しかし、どのように関わっていけばいいのか分からないし、冬のそり遊びは細々とですが続けていきたいと思っていますが、ほかのアイデアがなかなか出てきません。

今日は市長をはじめ、市職員も来ていますので、ぜひ伊ノ沢スキー場の夏の利用についていいアイデアを出していただいて、できればそれに予算を付けていただきたいと思います。

市長

心強いご意見をいただいて、私も本当に嬉しく思っています。

スポーツ課へも、私の立場として、例えばもっと多くの学校でスキー授業で利用していただけるように各学校に願ったり、地域の皆さんにもっと利用していただけるようにPRしてもらえるようお願いしてはどうかなど、これまでも伝えているところです。

夏は本当に素晴らしい場所だと思っています。例えば、背の高いヒマワリを植えて、迷路をつくったら面白いかなと思います。そうすると多くの子どもが遊びに来るのではないかなという気もします。また、斜面を利用して木製の巨大な滑り台や、冒険や木登りをすることができるような遊具などを設置すると、小学生やわんぱく盛りの子どもは遠くても自転車に乗って遊びに来るのではないかなと思います。

遠藤

私たち年配の者はチラシを配布したり、回覧板を回したり啓発活動を一生懸命やりたいと思います。もし冒険広場をつくるとなれば、町内会の青少年担当や部長などの若手がお世話役をやらないといけないと思っています。

市長

それは地域住民の皆さんや私たちと話し合っただけであればと思いますし、私も素晴らしいアイデアが出てくれば、頑張っって予算をつけたいと思います。

古山

伊ノ沢スキー場は、春先になるとエゾエンゴサクが辺り一帯に咲き、本当にきれいです。あれだけ群集で咲くところは他にはありません。ですから、そういう自然環境を活かした活用というのもいいかもしれません。

市長

本当に素晴らしいところです。今後いろいろなアイデアが出てくると思いますが、私たちも本当に何とかしたいなという思いでいますので、よろしくお願いします。

⑨地域の若い世帯の情報の把握について

佐々木(建夫)

民生児童委員をしています。65歳以上の高齢者名簿は、現在、民生児童委員へ提供していただいているおかげで、ほぼ地域の高齢者宅は訪問させていただいたところでは。

今年度から、「うぶごえへの贈りもの」という、子どもが生まれた世帯へ絵本を手渡す市の事業が始まり、今月から、民生児童委員などが取り組んでいくことになりました。今までは、このような若い世代の情報がなくて困っていました。若い世代は町内会に加入していない世帯が多く、情報を得づらい状況で、例えば保育所に入所するため、民生児童委員の証明書が必要なため、今すぐ書いてほしいと突然来られる方がいますが、どこに住んでいるのかこちらで把握していない人もいました。

「うぶごえの贈りもの」が始まったことで、その対象となる子が小学校に入学するまでの数年間は、その世帯の状況のある程度把握することができるかもしれませんが、それ以外の若い世帯の情報は非常に少ない状況です。また、特に若い世帯は転入・転出など異動が多いですから、情報を常に把握しておくことは難しいということもあります。

市長

若い世代の人たちは、子どもが生まれると広い家に引っ越すことが多いですから、何年か経つと情報としては古いものになってしまいますね。そのような課題もあるということですね。わかりました。

⑩まちづくり推進協議会と議員との関係について

林(茂夫)

昨年は神居のまちの魅力の再発見ということで、マップ作りをしたのですが、すごく取り付きやすかったと思います。「まちづくり」となると、広すぎて何をやっていいのかなかかわりません。例えば高齢者問題や児童の問題などを取り上げた時に、何らかの事業を行っていくということになると、地域の議員との関わりということが出てくると思いますが、そこで、このようなまちづくりの会議と議員との関係についてはどのように考えていますか。

市長

地域の議員にもいろいろとご相談していただくことはまったく問題ないと思

ますし、場合によっては、議員と連携して行っていただく部分もあるのかと思います。その部分は特に遠慮されずに、議員もいろいろなことについて詳しく知っていらっしやいますから、力をお借りするのはいいのではないかなと思います。

⑪嵐山スキー場跡地について

石坂会長

嵐山スキー場は今はなくなりましたが、その後、その場所はどのようになっているのでしょうか。

市長

嵐山のスキー場の跡地は、植林など行わず、自然の樹木を生やして、生態系を回復しようとしているところです。今ではもうすっかり木も高くなってますし、スキー場の斜面は昔スキー場だったということが分からないくらいまで木が高く伸びています。ジャンプ台が残っているのですが、公式認定を取ることができないジャンプ台なので、練習でしか使えないのですが、今子どもたちが練習しています。危ないのではないかなと思います、聞いてみると、一応まだジャンプはできるようで、自分たちで下を踏み固めて、また多分邪魔になる木は切って使っているのでしょうね。

⑫市民参加の取組について

佐々木副会長

まちづくりの主役は市民といわれていますが、市の各部局でそれぞれ基本計画案を作成し、これにかかわる市民参加の方法として、例えばパブリックコメントを行います。意見を述べる市民がいない、また計画案に使われている用語が非常に難しく、市民にとっては分かりづらく馴染みづらいという問題があります。また、委員会、市民会議、アンケートなどの市民参加の機会もありますが、実際は市民の参加は非常に少ない状況だと思います。市民参加という言葉だけが先走りして、パートナーシップ、協働の部分がなかなか結びついていかない状況です。行政として、どういう部分で市民参加を求めているのかということを示す必要があります。

市民参加といってもなかなか難しく、無関心な人の方が多く、関心ある市民はほんのわずかなのですが、それでも市民の声を聴く機会をこれからも設けていただきたい。

市では、中心市街地の活性化や旭山公園、常磐公園の周辺など、社会資源の整備をこれから進めていかれるようですが、これらの事業には当然相当な額の予算が伴います。ぜひこれらの事業を進める際には、できるだけわかりやすく情報を市民に発信して、それについての市民の声を聴いていただきたいと思ってます。

市長のまちづくり対話集会は、地域の住民の声を直接聴き、それを施策に反映されるように努力されており、これは今後も継続的に実施していただきたいと思います。

市長

できるだけ多くの地域の皆さんの声を聴けるように頑張っていますので、よろしくをお願いします。

⑬堤防に桜並木をつくることについて

古山

旭川は川のまちです。夏は朝から晩まで多くの人が堤防を散歩しています。大胆な発想かもしれませんが、堤防に桜並木をつくってみてはどうでしょう。

市長

よく桜並木を堤防につくってはどうかという市民の方からのお話はあります。春光の方の川で今桜を植樹しているところがありますが、一番問題なのが防災の関係です。川の水が増えて洪水になった時に、堤防や河川敷にいろいろなものがあると、その分流れて来るものが多いということになります。また、堤防の上に木を植えると、根が堤防の中に入り込んでしまって、堤防の強度が下がるということを聞いたことがあります。ほかにもいろいろと技術的な問題もあるみたいですよ。

防災という面からは、基本的には堤防の内側には何もないうらいがいいのだと思いますが、そういうわけにはいかないですから、私たちもいろいろお願いしてやっています。桜並木については、川と少し離れたところの方がいいかもしれませんね。

⑭神居支所・神居公民館の老朽化について

藁谷

この神居支所と公民館ですが、相当古くなっており、冬は寒く、音響も悪いし、改築計画があるかどうか分かりませんが、何とかしてもらいたいと思っています。神居住民センターまで行くのはたいへんです。

市長

それについては私も聞いてます。ここはもうだいぶ古くなってますよね。ここは昭和何年築ですか。

和田事務局長(市民生活部次長)

昭和47年です。

市長

47年ということは合併後に造ったということですね。

東旭川支所も古いですね。

古いことは十分に認識しております。おいおいまた考えていきたいと思えます。

⑮神居中学校の水道設備の老朽化について

石坂会長

神居中学校の水道はポンプで屋根の上にあげた暖かい水を飲料水として使っています。鉄製の配管はもう30年も前のものですから錆びて赤くなっており、臭います。子どもたちは、夏は外のテニスコートの水を飲んでいますが、教育委員会にはその旨伝えていますが、何とかならないでしょうか。

市長

神居中学校も大分古くなっていますね。

教育委員会では緊急の度合いによって、優先順位をつけて、緊急度の高いところから、私たちのところに話を持ってきてくれていると思います。

状況は十分に認識させていただきましたので、教育委員会とこの件について話しをしたいと思います。すぐに改善等することは難しいかもしれませんが、その緊急度合いなどについて調べさせてください。

市長終わりのあいさつ

予定の時間を少し過ぎてしまいましたが、今日は皆さん最後までお時間を取っていただきまして、ありがとうございました。

神居地区のまちづくり推進協議会では、これから新年度の様々な取組について、本格的に検討を進めていかれるということでございますが、私も今日いただいたご意見などについて、持ち帰って市役所内でしっかりと検討させていただきたいと思います。

また、本地域の協議会、地域の発展のため、今後も皆さん方のお力添えを賜りますようよろしくお願いを申し上げます、簡単ですが締めのごあいさつとさせていただきます。どうぞまたよろしく願いいたします。